

令和6年 第7回 根室市教育委員会 会議録

1. 非公開案件の審議（会議録省略）

- (1) 議案第28号 根室市教育支援委員の解任及び委嘱又は任命について

結 論 原案どおり決定

- (2) 議案第29号 根室市社会教育委員の解任及び委嘱について

結 論 原案どおり決定

- (3) 議案第30号 根室市放課後子どもプラン運営委員会委員の委嘱について

結 論 原案どおり決定

その他

1. 教育委員会の会議への大学生の参加について

<教育長>

第2部から北海道教育大学釧路校の大学生2名が参加します。

大学側の取組や、根室市の教育についての意見交換ができればと思っておりますので、よろしくお願ひします。

<教育長>

その他ございますか。

以上で令和6年第7回教育委員会の会議第1部を終了します。

(第1部 11時00分 終了)

<教育長>

これより教育委員会の会議第2部を開催します。

第2部からは、北海道教育大学釧路校より2名の大学生と大学生の指導をされている先生にお越しいただいております。

根室市と北海道教育大学は、連携協定を結んでおり、教育的支援の他、地域振興、大学の就職支援などについて共有しております。

大学生の取組を紹介いたしますと、昨年度から大学生が根室に訪問、根室の小学生を対象に「子ども大学」という事業を北方四島交流センターで実施しました。大学で学ぶ専門的な授業を小学生にも体験してもらおうという取組で、SDGsを中心のテーマとして根室の食材を使って持続可能な食をどうしていくか、健康や防災減災対策、北方領土問題も含め、大学生と一緒に交流しながら学んでいこうという取組です。

加えて、試行的な取組ではありますが、根室市の放課後児童教室と釧路教育大とオンラインで結んで、勉強で小学生がわからないところがあったら大学生が教えてあげるといった交流を進めています。

今回、これまで根室市を研究フィールドとして活動していただいている大学生に、これまでの取り組みや今後について報告していただきます。

よろしく申し上げます。

<大学生>

～北海道教育大学釧路校 地域教材開発研究室の取組について説明～

1. 北海道教育大学釧路校地域教材開発研究室の取組

- ①幼稚園と連携した教育支援事業について(まなびや)
- ②幼稚園と連携した社会教育事業について(てらこや)
- ③SDGs子ども大学について

2. 今後の展望

- ・ミニ子ども大学
- ・修学旅行の受入れ等

<教育長>

ありがとうございます、ご意見やご質問がある方はいらっしゃいますか。

<委員>

今回このような取組について発表していただき、根室の子どもたちのために取組をさらに進めていってほしいなと思いました。

発表を聞いた感想としてですが、大学というのはレポートの作成があると思います。目次、概要を作って、詳細な内容について記載する。といった流れだと思いますが、今回は研究結果の発表ということで、詳細な内容については伝わりましたが、その取組を行うにあたっての背景や、各取組の概要について、もう少し教えていただきたいかったです。この研究は何を目的として、このような取組をしているという点についても教えてほしかったなと思いました。

質問になりますが、大学生のお二人が教員になったときに、どのような子どもを育てていきたいと考えて

いるか教えてください。

<大学生>

学校だけではなく、地域全体で子どもたちを育てていきたいと考えています。

一緒に魚をさばいてみたり、焼いたことのない魚を焼いてみたり、子どもたちに五感を使って学んでいてほしいと思います。

<大学生>

子どもたちに、様々な世界や場所を知ってもらいたいと思っています。

自分の住んでいる地域であったり、自分の好きな雰囲気の場所であったり、もちろん学校の中であったり、自然であったり、自分の知らないものについてそれぞれの視点で感じてほしいなというふうに思います。

<教育部長>

お二人は北海道出身ですか。

<大学生>

私は北海道の旭川市です。

<大学生>

私は広島県広島市です。

<教育部長>

今回、子ども大学などの取組で交流した根室の子どもたちの印象はどうでしたか

<大学生>

SDGs子ども大学で初めて交流をしましたが、大学生とはほとんど関わったことがないのに、子ども大学が始まる前から話しかけてくれる子もいて、人懐っこい印象です。

<大学生>

自分はおとなしい印象だなと思いました。

大学生というよりは初対面の人に緊張してるのかなと感じましたが、交流を行っていくにつれ、少しずつ話しかけてくれるようになりました。

<教育部長>

今回子ども大学では全国のお菓子を食べる機会があったと思います。

お菓子はどのように選びましたか。

<准教授>

今回のお菓子については、大学生が長期休業中など地元へ帰省した際に、自ら企業協賛の依頼をして、協賛に賛同いただいた企業からお菓子の提供をいただいております。

<教育部長>

全国のお菓子を食べた子どもたちの反応はどうでしたか。

<大学生>

今回提供いただいたお菓子の中でも、山形県のオランダせんべいについては、子どもたちが根室市のオランダせんべいと食べ比べをして、山形と根室の違いを見つけっていました。

さらに、大学側で全国のお菓子パンフレットを作成して、参加した子どもたちに見ていただきました

<教育長>

今回、教育委員会の会議への参加について案内しましたが、参加したいと思った理由を教えてください。

<大学生>

子ども大学などの活動を通して、根室市との繋がりというのを大事にしたいと思ったからです。

大学がない地域だからこそ、自分たちができる活動というのを大切にしていきながら、さらに繋がりを深めていきたいと思いました

今後、根室市で教員として就職することになった場合、大学の研究室との繋がりを自分が間に入ることで更に深めていくことができるのではないかと思うところもあります。

<准教授>

学生が行う研究室の取組にもつながりますが、やはり教員不足が課題としてある中で、その地域に無理やり教員を加配しても、その地域を希望しない教員もいます。その中で、大学側で教員不足の解消のために何ができるか考えたときに、子どもたちに先生になりたいと思ってもらう、教員という仕事に興味を持ってもらう。といったことが大事になってくると思います。

小学生が先生という職業に興味を持ち、中学校へ進み、中学生が高校生になったときに、大学生とも交流しながら、小中学生へ教える経験をすることで、教育大学に興味を持つ学生も多くなっていくのかなと思いますし、根室市でも大学生の教育実習の受け入れ体制を整えていただいているので、教育大学の学生が子どもたちに教える機会を増やしていくことは大事なことかなと思います。

急に地域の人口が増加することや、他の町から大量に移住してくることは考えにくいと思いますし、仮にあったとしても持続可能性がないので、数年経つと町から人が抜けていってしまう可能性も高いので、やはり地元で生まれ育った子が中学、高校を経て教育大学へ入学し、教員を目指すという循環は継続していきたいと思います。

<教育長>

会議に参加している若手職員に質問をしたいと思います。

教育委員会、教育委員はどのようなイメージですか。

<教育総務課担当>

教育委員会という部署があるのは知っていましたが、教育委員については市職員として勤務してから知りました。

<社会教育課担当>

教育委員会の中でも、学校教育と社会教育という分野があって、全然違うなと感じました。

学校教育では主に学校との関わりのみになってしまいましたが、社会教育というのは地域との関わりも多く、社会教育でしかできない教育もあると思いますし、社会教育という分野の可能性ややりがいを感じながら仕事をしています。

<教育長>

社会教育という言葉がでましたが、大学生として社会教育に通ずる取組は行っていますか。

教育委員会では「なるほどTHEねーむろ」という取組を行っています。

その取組は、施設に宿泊するという事は決まっていますが、中身としての内容が何も決まっていない中で、子どもたちが自分たちで考えて遊び、料理もします。

ご飯についても、食べるメニューの話し合いから行い、アレルギーの確認や好き嫌いについても子どもたちが話し合いをしながら進めていき、寝る時間も子どもたちが判断しています。

1泊2日ですが、子どもたちが大きく成長したように感じました。

昨年、大学と放課後教室でオンライン交流をしたとのことですが、子どもたちの反応や実際にやってみて感想についても教えてください。

<大学生>

子どもたちの反応は良かったです。

昨年、オンライン交流を行ってみて課題として挙げられるのが、接続の問題です。

今回は大学生が根室に出向き、接続等の作業を行って実施をしましたが、今後根室へ出向かずに気軽にオンライン接続をしたいとなった際、放課後教室の指導員に接続作業を行っていただかなければならず、支援員の業務負担が増えてしまうことが考えられます。

<大学生>

実際に接続ができていても、交流の途中で接続トラブルが発生した際、根室側で大学生がすぐに対応できないといったことも考えられます。

釧路根室間は距離もあるため、交流を行いたいと思っても、毎回根室に行けるわけではないので、移動距離の問題と、接続作業等の業務を行う職員の負担軽減が主な課題だと思います。

<教育長>

大学の取組について教育委員の方々からご意見等はございますか。

<委員>

教育大学の社会教育の取組として、「釧路元町てらこや」、「こば研まなびや」といった取組がありますが、参加する子どもたちは、徒歩圏内で歩いて通える距離なのでしょうか。

もしくは、保護者が連れてこないといけない距離にあるのでしょうか。

<大学生>

子どもたちの多くは自転車で来ることが多いですが、保護者の送迎で来る子どももいます。

<委員>

今回説明のあった大学側の取組というのは、子どもたちの新たな発見や考え方にもつながっていくと思うので、今後も取組を継続して、少しずつ交流回数も増えていっていただければいいなと思いました。

<委員>

根室は大学がないという環境のため、このような取組は子どもたちにとってすごく良い取組だと感じます。

子どもたちが釧路の身近な大学生と接することができるというのは、大学のことなど興味があることについて聞きやすくなるので、オンラインでの交流も1回や2回ではなく、可能であれば頻繁に行っていただければいいなという思いです。

そのためにはオンライン接続や接続トラブルが起きた時の対処など、解決していく問題もあると思います

が、検討していただきたいです。

<教育長>

昨年8月に教育委員会の会議へ高校生が参加して、意見交換を行いました。

その後、今年2月に東京大学の先生が社会教育の関係で来られて講演を行った際、「世代を超えた交流が地域の活性化につながる。」ということをお話しされていました。

その講演を聞いた高校生が、自分たちで小中学生に勉強を教えたいということで、自分たちで勉強会を企画しました。勉強会の内容や報道依頼についても自分たちで行っています。

今回は夏休みに開催する予定です。

大学生と高校生で交流を行い、市教委として、その交流をサポートできるような環境ができればいいなと思っています。

<大学生>

自分たちが高校生や高校の生徒会と交流したいと思って行動する段階で、どうしても教員が間に入ると調整になってしまうと思います。

教員が入ることによってよくなることもあると思いますが、学生同士で交流を行っていくためにはどのようにしたらいいでしょうか。

<教育部長>

今回春休みに実施した勉強会は、高校の生徒会で企画運営を行いました。

夏休みに行く予定の勉強会は高校生徒会と中学生徒会が共同で企画運営を行います。

生徒会が自ら企画を行い、その内容で先生と協議した上で今回の実施に至っています。

<教育長>

高校生のほうから交流についての打診があったら、大学生側としてはどうですか。

<大学生>

高校生から話があったら嬉しいです、交流もしやすいと思います。

<教育長>

今後は、学生間で交流を深めていくことができないかも含め、市教委として検討していきたいと思っています。

本日は短い間でしたが、意見交換をしていただきありがとうございました。

以上で、教育委員会の会議第2部を終了します。

(第2部 11時45分 終了)